

## 仰げば尊し…



### 主 な 内 容

|                         |        |                         |           |
|-------------------------|--------|-------------------------|-----------|
| 会長挨拶 .....              | 光澤 武 2 | 会員広場                    |           |
| 高森町長挨拶 .....            | 熊谷元尋 2 | 私の育った高森 .....           | 宮島敏彦 7    |
| 第25回定期総会 .....          | 龍口昭人 3 | 回想あれこれ .....            | 篠田輝臣・昭枝 7 |
| 平成25年度会計報告並びに監査報告 ..... | 3      | 私の郷里は伊那谷 .....          | 佐々木陸海 8   |
| ふるさと交流懇親会 .....         | 木村 勇 4 | 童話で知られる 狸囃子寺 .....      | 福住昭六 8    |
| 「ふるさと便り」壬生照玄さん .....    | 4      | 特集「高森中学校校歌」のこと .....    | 酒井弘司 9    |
| 会員交流会                   |        | 高森俳壇 .....              | 10        |
| 日本銀行見学と新東京駅の観光 .....    | 林 俊子 5 | 会員動向 新入会員紹介・入会お誘い ..... | 11        |
| 高森町まるごと収穫祭参加と一泊の旅 ..... | 岩崎 悟 5 | ゴルフ同郷会を立ち上げました .....    | 11        |
| ふるさと春・秋の農作業支援 .....     | 龍口昭人 6 | お知らせ掲示板・編集後記 .....      | 11        |
| 高森会ホームページ .....         | 6      | 東京第一支部小景 .....          | 12        |

## 会長挨拶

会長 光澤 武



橘家竹蔵師匠の小噺を楽しんで戴きます。

恒例のふるさと特産品コー

ナーは、今年は、市田柿と

信州リンゴを用意しました。

又今年の会員交流会は、

十月ハトバスツアーの懐か

しの浪漫紀行（靖国神社↓

皇居前広場↓耕公レスト

ハウス（昼食）↓国会議事

堂↓迎賓館↓六本木↓東京

タワー）を計画しました。

別途ご案内致します。

皆様今日は、今日は第二十五

回の定期総会並びにふるさと南

信州高森のつどいに、台東区民

会館の改修工事の関係で日程が

変則になりましたが、多数の会

員の皆様、高森町からは公務多

忙の中、熊谷町長様をはじめと

して、樋口議会議長・中塚経営

企画室長・経営企画室の皆様、

又今年も牛牧おやきの会の皆様

並びに上平せせらぎの会の皆様

にご参加を賜りまして、誠に有

難うございます。

お陰様で、第二十五回の定期

総会の議案は、原案通りご承認

を戴きまして、平成二十六年

度の事業計画を進めてまいります。

本日の集いのアトラクション

は、飯田市山本出身の落語家、



今年も毎度粗餐ですが、時間の許す限りお過ごし願います。

最後に高森町の益々のご発展

と、ご来場の皆様のご健勝をお

祈り致しまして挨拶と致します。

## 高森町長挨拶

町長 熊谷 元 尋



高森会の皆さまには、ふるさと高森

町に對しまして常にご高配をいた

と共に、多くの会員の皆さまからご支

援を賜っており、心より感謝申し上げ

ます。

去る二月二十二日には、高森会の総

会並びに交流会が、多くの会員の皆さ

まご出席のなか、和やかな中にも盛大

に開催されましたことを、心よりお喜

び申し上げます。大勢の皆さまがお集

まりになる中で、高森会会員の皆さま

と語らい親睦を深めることができ、と

ても楽しく、心温まるひと時となりま

した。

ご存じのように日本は、人口減少時

代を迎えています。地方においても人

口減少が進み、特に飯田下伊那地域は

人口減少が著しい地域です。そのよう

な中であって高森町の人口はこれまで

微増を続けてきました。また平成二十五年十月現在、高森町年少人口（0歳から14歳）の割合が県内で一番高いといった明るい話題もあります。しかしこれからは高森町でも少しずつ人口が減少していくことが予想されます。人口減少時代のまちづくりの指針となる将来計画を、現在町民の皆さまと一体となつて策定しています。

また、進学や就労のため一度は転出したものの、高森町に定住し、町内はもとより上下伊那を中心とした通勤圏内で定職した若者に対し、「おかえりなさい奨励事業補助金」を六月から交付します。高森町出身のＵターンをより一層促進しています。

リニア中央新幹線は、十三年後の東京と名古屋間での開業に向けて、今年度からいよいよ工事が始まります。中間駅に近隣する高森町は、リニア時代に向けて大きく飛躍していく可能性を秘めています。町内外の皆さまから高森町は「いい町だ」と言っていたことができるように、そして遠くにいらしても誇りにおもっていただける高森町を目指し、職員一丸となつて取り組んで参りますので、今後ともご支援ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

高森会の益々のご発展と、皆さまのご健勝並びにご多幸を心からご祈念申し上げます。

# 高森会（関東地区） 第二十五回定期総会

幹事長 龍口昭人

平成二十五年度、第二十五回定期総会と交流懇親会は、台東区民会館が四月より改修工事に入るため、工事前の二月二十二日(土)に開催されました。

時期的には例年と違い、寒さの中にも拘わらず、会員55名とご家族、町からの皆様や周年記念として、南信州山本出身の嘶家ゲスト橘家竹蔵師匠ご夫妻、合わせて98名の方々が集いました。

## 来賓・協賛団体、ゲストの方々

町 長 熊谷 元 尋 様  
議 会 議 長 樋 口 俊 二 様  
経営企画室長 中 塚 英 幸 様  
経営企画室主任 中 塚 美 紀 様  
経営企画室主事 小 平 普 様  
牛牧おやきの会代表 小 坂 ち ず 様  
上平せせらぎの会代表 高 野 比 佐 子 様  
他 8 名  
ゲスト 橘家竹蔵師匠ご夫妻

## 定期総会

総会は、町の皆様の到着を待って、予定を少し遅れ開会となりました。

光澤会長のあいさつ、ご臨席の来賓紹介があり、審議に入りました。先ず会務報告では、九月一日現在の会員が254名で、会報発行やふるさと高森との交流状況等事業実施結果が報告されました。会計報告は、別添資料の通りですが、今回の会計年度は前回の総会で承認されており、特例として会場の都合から、四月一日～一月三十一日の間となっ

ています。主なものとして、会員の年会費収入は四十三万八千円であり、これが会報発行費二十七万円や会報・総会の通信費、会場使用料に支出されており、トントンの状況。年会費納入のご理解、ご協力の要請があり、承認されました。事業計画では、今年ふるさと訪問旅行はお休みとし、来年の総会・懇親会の日時・場所については、会報発送時に連絡することで了解されました。総会審議が終わり、会長から当会の発展向上に貢献された前会長で顧問の、羽生義雄様へ感謝状と記念品が贈呈され、ご当人から答礼のご挨拶がありました。

次に町の近況について、経営企画室主事小平普様から、市田柿工房完成・北部火葬場の建設・リニア中央新幹線や不動滝の大雪状況等がスライド・ビデオを使って説明がありました。

参加者は、ふるさと高森を感じとり、第一部を終りました。



## 高森会（関東地区）平成25年度 会計報告並びに監査報告書

（平成25年4月1日～平成26年1月31日）

| 収 入 の 部            |           |                                                         | 支 出 の 部   |           |                                                                       |
|--------------------|-----------|---------------------------------------------------------|-----------|-----------|-----------------------------------------------------------------------|
| 科 目                | 金 額 (円)   | 摘 要                                                     | 科 目       | 金 額 (円)   | 摘 要                                                                   |
| 前年度繰越金             | 412,185   | 内訳（郵便貯金） 394,863円<br>（振替口座） 1,920円<br>（現 金） 15,402円     | 事務用品費     | 12,978    | コピー・文具代 他                                                             |
| 会 費 収 入            | 438,000   | 年 会 費 219名×@2,000円                                      | 通信・交通費    | 37,420    | 会報・案内発送代 他                                                            |
| 特別行事収入             | 1,064,000 |                                                         | 会 議 費     | 33,562    | 役員会、会報編集等会議費                                                          |
| ① 懇親会参加費           | 480,000   | 参 加 費 会 員 66名×@5,000円<br>高森町関係参加者 合計 150,000円<br>高森町名産品 | 取扱手数料     | 23,350    | 参加費払込手数料、送金手数料                                                        |
| 懇親会売上金             | 154,000   | 高森町役場 羽生義雄 吉川 昭<br>中川正文                                 | 総 会       | 696,481   | 総 会（既報）                                                               |
| 懇親会ご寄付             | 75,000    |                                                         | ふるさと祭り参加費 | 369,140   | リング狩り旅費（既報）                                                           |
| ② ふるさと祭り参加費（リング狩り） | 355,000   | 参 加 費 17名×@20,000円<br>役場関係参加者 3名×@ 5,000円               | 会報発行費     | 270,035   | 会報・印刷費26号（12ページ800部）                                                  |
| 寄付金収入              | 21,000    | 平井 昌 16,000円 城子 弘 5,000円                                | 名簿発行費     | 30,240    | 名簿・総会案内印刷費                                                            |
| 預貯金利息              | 101       | 浅草局他                                                    | 会場使用料     | 15,900    | 台東区民会館（幹事会）                                                           |
| 雑 収 入              | 62        | 現金過不足                                                   | ホームページ更新費 | 26,000    | ホームページ委員会                                                             |
| 合 計                | 1,935,348 |                                                         | 計         | 1,515,106 |                                                                       |
|                    |           |                                                         | 次年度繰越金    | 420,242   | 内訳（郵便貯金） 364,374円<br>（振替口座） 2,090円<br>（現 金） 48,778円<br>（図 書 券） 5,000円 |
|                    |           |                                                         | 合 計       | 1,935,348 |                                                                       |

高森会（関東地区）平成25年度会計報告の内容を厳正に監査しましたところ、この取扱いは総て本会の目的に合致しており真正なものと認めましたので、ここに報告申し上げます。

平成26年1月11日

高森会（関東地区） 監査 原 利 文 ㊞  
監査 城 子 弘 ㊞

平成26年1月8日

高森会（関東地区）  
副 会 長（会計担当） 中 川 正 文 ㊞

## ふるさと交流懇親会

副会長（行事） 木村 勇

第二十五回「ふるさと南信州高森のつどい」は、本年度は会場の台東区民会館が四月から改装の為一年程使えないので、前倒しして二月二十二日に開催しました。記録的な大雪に見舞われて、中央高速の不通が続き、高森町の皆さんが来られないのではないかと直前まで心配しましたが、無事参加していただき30分遅れ位で無事開催できました。高森町の近況報告では大雪の状況、昨年開設した柿工房の紹介、吉田に建設中の火葬場の様子などの紹介がありました。

第二部の「つどい、懇親会」は会員と家族、紹介者72名、高森町からは直前の選挙で再選を果た



された熊谷町長を始め要職の方々、協賛団体の皆さんを合わせて98名でにぎやかに始まりました。

光澤会長・熊谷町長の挨拶、樋口町議会議長の音頭で乾杯の後、今年は超大物飯田市山本出身の大真打『橋家竹蔵師匠』が楽しいトークショーで、みんな飲み食いの手を止める程時間を忘れて大笑いさせてくれ、途中から奥様も加わってかっぱれや南京玉簾など息の合った演芸を、予定時間を倍くらいオーバーする熱演で、盛り上げてくださいました。かっぱれなどは寄席に行っても全部はやってくれないので感動しました。竹蔵師匠は其の後懇親会に加わって終わりまで皆さんと交流していただきましたが、お楽しみお買い物タイムを挟んで高森町歌を合唱して終わりました。

中締め、万歳三唱の後、来賓の皆さん、協賛団体の皆さんをお見送りして、最後の楽しみ福引抽選会で喜んだ人、がっかりした人、ドキドキした時間をもって無事終わりました。

来年度は例年通り五月の終わるか六月の初めを予定しています。会館の都合で同じ様に出来るかどうかは不明ですが、もっと楽しんで頂けるよう努力します、楽しみにして知人友人を誘って参加してください。



高森会の担当者から

## 「ふるさと便り」

高森町役場経営企画室長

壬 生 照 玄



本年度四月の人事異動により経営企画室長に任命され、高森会の担当をさせていただきましたことになりました、山吹出身の、壬生照玄と申します。未熟者ですが、精一杯努めたいと思いますので、以後よろしくお願いいたします。

高森町では、六月と同時に例年より早く梅雨入りしましたが、梅雨とはいえ、今のところまとまった雨がなく、農作物に対する影響が心配されています。そのような中でも、現在ナシやリンゴの摘果作業が進み、さくらんぼ狩りが最盛期を迎えています。営農支援センター「ゆうき」が行っているさくらんぼ狩りは、例年六月上旬から七月上旬まで行われます。是非お出かけいただき、初夏のふるさとの味を堪能されては如何でしょうか。

昨年三月に国立社会保障・人口問題研究所から、平成五十二年の日本の地域別の人口推計が示されました。多くの自治体で大幅な人口減少が見込まれる中、



高森町では対平成二十二年比九一・四％と減少率が低い水準となりました。要因としてリ

ニア新時代の到来や立地の良さ、子育て施策の充実が上げられていますが、今後、最低でも示されたこの水準が維持できるよう、人口減少・少子高齢化問題を現在検討中の第六次振興総合計画の重点課題に掲げ、子育てや雇用等の対策を強化し、魅力あるまちづくりに取り組んでいきたいと思ひます。

結びに、高森会の益々の発展と、会員の皆さまのご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。

# 会員交流会

## 日本銀行見学と新東京駅の観光

平成二十五年七月十九日（金）

東京第一支部 林 俊 子

日本銀行の本館、9時30分に集まった参加者は34名でした。

日本銀行・金属探知機を通り抜けて室内へ、ビデオを見ながら、日本銀行の歴史や、お札の発行から処分まで管理し、この国の物価や金融システムの安定等、日本銀行の仕事内容の説明を聞く。普段新聞や報道で見聞きして、分かっていなかったことなど興味深かった。その後二組に分かれて案内人について、今は使われていない古い館内を巡る。

一階―そのままの窓口、壁には細かな彫刻があり、柱にはブロンズ像。三階―金、銀を量った大きな天秤量り、八角形のドームの真下は総裁室に使われていた、広い廊下には歴代総裁の肖像画が並ぶ。

エレベーターは日本で二番目に作られたと言う古い時代の雰囲気そのまま、水洗トイレも当時は珍しかったとか。地下金庫―明治二十九年に建てられてから平成十六年まで使われていた。厚さが90cmもある大きな扉と広い室内、今は見学用にダミーの札束と金の

延べ棒が積まれていたが、使われていた当時は…想像もつかない。次は貨幣博物館へ―古銭から時代を巡って一回りする。高森町にもあった富本銭もありました。

昼食は八重洲に出て、それぞれに注文して会食、歓談と一休み。

東京駅―新装なった東京駅、日差しにレングが映える。まずは外から外観を眺める、ドームの中は急ぎ足で通り過ぎる人、カメラを向ける人、立ち止まって見上げる人、平日の日中で混雑はしていない。

ここでひとまずお疲れ様と解散。その後、目の前の中央郵便局の屋上へ、斜め上から東京駅を眺める、風が心地よく通り過ぎて、暑い中お疲れさまでした。



日本銀行の前で



東京駅



日本銀行

## 高森町まるごと収穫祭 参加と一泊の旅

副会長（会務）岩 崎 悟

新宿よりバスにて16名参加しました。大変良く晴れ上がった好天気に恵まれ、楽しい二日間でした。

「まるごと収穫祭」会場は太鼓・踊りと賑やかに盛り上がり、おりました。会場を後にして、今年も「リング狩り」へ、その後湯ヶ洞温泉へ。懇親会には、役場からは熊谷町長他2名出席いただき、無事終わりの一泊。

翌朝、朝霧がきつくて予定の不動滝へは中止。松岡城址を見学して市田柿工房へ。大変な設備で、四十億円とのことでした。それから貧乏神社へ、バットのような棒で三回叩いて「貧乏神、出て行け」とやると、幸運・幸福がやって来るとの事です。

全国から六千通のお礼状が、中には宝くじ大当たり有難う、等小屋中に張ってありました。それから水引工芸館へ。ここで昼食をいただき、川本喜八郎の人形美



松岡城址



貧乏神社



諏訪湖SA 中央高速道路上り線にて

術館へ、NHK放映の「三国志」「平家物語」に出て来た人形が大変見応えありました。それから喜久水酒造も見学、利き酒しながらおみやげを買いました。帰路、多少混みましたが無事新宿へ19時30分着、皆様おつかれさまでした。

# ふるさと春秋の 農作業支援

幹事長 龍口昭人

ふるさとの春・秋の農作業支援は、概ね春のりんご花摘み作業が五月上旬に、秋の市田柿収穫作業が十一月上旬に実施されて来ております。

今年のりんご花摘み作業支援は、五月二日～六日を中心に実施され、高森会有志二グループの26名が支援に参加し、平成十四年秋から支援に参加して以来の多人数でした。

町全体でも、受け入れ農家に対し支援者は106人（男性53人・女性53人）の多くを数え、受け入れ窓口として配分に苦労



されたとの裏話を耳にしました。年金生活者が多くなると共に、受け入れ農家の高齢化・後継者難による廃農などで、受け入れ需給バランスが崩れるようなことが来るのでしょうか。今年の作柄は、霜の影響無く花摘み摘果作業も順調に進み、秋の収穫が楽しみですとのことです。

次に昨年秋季の市田柿収穫作業支援は、十一月一日～五日を中心に実施され、高森会は17人が柿取り手伝いに行っていました。

四月の低温で収穫が心配されましたが、その後天候は順調に推移し、暮にはお手伝い先より、美味しい市田柿が届きました。近所にもお裾分けして大変喜ばれました。

高森会の情報はホームページでもご覧いただけます

## 南信州高森会（関東地区）



ホームページアドレス

<http://takamori.la.coocan.jp/>

又は高森会で **検索**

### 掲載一覧

- 掲示板 ふるさとの話題、身近な情報等随時掲載しています。
- 第25回定期総会・懇親会 平成26年2月22日(土)
- 高森会の会報 No.26の紹介
- 援農ボランティア活動  
春のりんごの花摘み作業・秋の市田柿収穫作業の支援
- ふるさと訪問旅行 平成25年11月16日(土)～17日(日)  
ふるさとまるごと収穫祭参加と  
りんご狩り、町内近隣の観光
- 会員交流会 平成25年7月19日(金)  
日本銀行見学と新東京駅の観光
- ★ 掲示板では皆様からの投稿をお待ちしています。  
身近な出来事、伝えたいことなど、情報の場としてご活用ください。各ページのコメント欄もご意見感想等ご自由にお寄せください。

メールアドレス：takamoriakai@gmail.com

### ホームページの『掲示板』は みなさんの情報交流の広場です

#### 掲示板

暑中お見舞い申し上げます  
梅雨も明け夏本番になりました  
この夏もお元気にお過ごしください



#### 尾瀬にに行ってきました

6月4、5日に緑区体育協会のハイキングで、尾瀬に行ってきました。



という。写真のような大変きれいな水芭蕉を眺めることができました。

木村 勇

#### 高森会有志8名、ゴルフを楽しみました

ゴルフ好きなら、今アメリカのマスタースに目が行っているところかと思いますが、これより20日ほど前の3月27日、高森会の有志8名が東京湾の埋立て地に造られた岩洲ゴルフリンクスで、ゴルフを楽しみました。



きっかけは、1月の幹事会後のコミュニケーションで、岩崎邦彦・悟さんの両副会長が、当会でも何か趣味を通して交流の輪をより広く、強く結びつけたいと、話がまとまり、取りあえずゴルフ好き集まれと音頭を取られたものです。

当日前半は、雨と強い風でたじたじでしたが、後半は雨も止み参加者は大いに力を発揮されました。ホールアウト後、次は秋口にコンペをと和気あいあい、お茶して帰りました。

龍口昭人

ホームページ管理運営委員会 制作担当 林 俊子

## 会 員



## 広 場

## 私の育った高森

東京第一支部 宮島敏彦



私が育ったのは、吉田の上段中央アルプスの付け根でした。当時、

飯伊地方はまだ地域全体が貧しい時代でした。しかし住んでいる人々は、貧しいことを気にすることなく心豊かに生活していたように思います。

小学時代は、稲刈り後の田んぼでゴムボール野球（「チーベース」と呼んでいたと記憶していますが、）をやり、田んぼリンクで下駄スケートをし、山を駆け回り遊んでいました。遊び場は下市田から牛牧・出原と旧市田村全域でした。でも、春と秋の農繁休暇には田植え・稲刈りを手伝うのが当たり前の生活でした。

中学は既に統合され数年経っていました。山吹地区の友人が多数できました。遊び場は、高森全域まで広がりました。二十世紀梨の

袋掛けが、中学の課外授業でした。掛けた枚数に応じ、「旅行積み立て」にお金が振り込まれていました。

高校時代、中央高速の工事が始まりました。田舎を出た後に、高速は名古屋まで開通しましたが、開通を境に、飯伊地方も少しずつ豊かになってきたように思います。東京まで開通したのは数年後ですが、高度成長とともに何か忘れ物をしたような気がします。

二〇二七年、リニア新幹線が開通すれば、ますます東京との距離は縮まりますが、私の原点は、飯伊・高森でのあの（貧乏でも楽しく遊んだ）時代にあるように思います。



吉 田 山

## 回想あれこれ

埼玉支部 篠田輝臣 昭枝



私は、昭和六年一月八日上市田に生まれ83歳。二十五年十月、20歳で上京。浅草の従兄のやっている篠田商店に就職しました。自転車で東京中の得意先を走り回りました。

昭和三十五年十月十五日、山吹中の佐々木昭枝と田舎で結婚式を挙げました。店の近くで、新婚アパート暮らしが始まりましたが、喧嘩しても田舎の帰り方もわからず、それが却って良かったのかも知れません。

昭和四十四年、小さな家ですが念願の我が家を越谷に建てることになりました。

と同時に夢であった民謡を習いたくて探し、早坂光枝先生に習って四十五年経ちました。まだ月二回稽古に通っています。

長野県も広い県で、長野・松本だとすぐわ

かりますが、私達のふるさととは、市田柿の所だというところ、わかってもらえます。柿は妹の所で作っているのでも送ってもらい、とても幸せです。りんごも実家から送ってもらえ、田舎のりんごはどこよりも美味しいと言われます。

高森会の総会・懇親会通知が来ると、すぐ出席しようと思います。今は、浅草にて定着したので、越谷から乗換え無しで行けるし、スカイツリーも出来、観音様にお参りしてから行きます。

五平餅・草餅・塩イカ、何よりも同級生と、知り合いもいるし、大びらに田舎の言葉でしゃべれるのでうれしいです。帰りは五平餅等を買って、おみやげもいただき重たいですが、うれし重さです。

同級生から、また来年も二人揃っておいないうとってくれるので、又逢えるのを楽しみに過ごしたいと思っています。



民謡発表会（若い時）



自宅に咲く山吹の花

## 私の郷里は伊那谷

外周支部 佐々木陸海



小学校入学から中学校卒業まで、喬木二年、泰阜三年、山吹二年、遠山二年

（全部当時の村名）と住所が変わった。だから「郷里は」と問われたら、「伊那谷」と答える。

小六と中一の時期を「山吹村駒場」で過ごした。朝陽がさんと降り注ぐ天竜川西岸の、緑豊かな段丘だった。学校もそこにあり、飯田線の駅にも近かった。他のどこより自然がおおらかで、そして便利な土地だった。

小三の頃から、蝶の採集が私の生き甲斐だった。山吹時代はその一つのピークで、捕虫網を手に蝶を求めてあちこちを探検した。オオムラサキが集まったあのクヌギの木が、紫色のあの翅（はね）の輝きが、今も目に浮かぶ。こ



山吹中1年のキャンプで…  
右側：北城 豊君  
左側：安藤達夫君



那須塩原のわが家の庭のクヌギにきたコムラサキ  
(2012年6月15日撮影)



1994年1月14日私を励ましてくれた山吹中同窓生（新宿・中村屋）

んなどころは、他にな

い。

「郷里」の

大事な要素

は、自然と

ともに人の

つながりだ。

三クラス1

50人の同

窓生がいた

遠山は、重

い意味を持

つ。同時に

一九九三年

夏の総選挙

で私が初当

選した時、

すぐに集ま

れた山吹時

代の同窓生

（関東在住）

の存在も忘

れ難いものだ。

いま、同窓

会の案内が

来るのは、

高森と遠山

からだ。

山吹と遠山

は、二度と

還らない私

の少年期の、

夢やあこが

身の上を恨んでいた。いま、複数の「郷里」を持てることはむしろ喜びだ。その意味も込めて「私の郷里は伊那谷」ということになる。

## 童話で知られる

## 狸囃子寺

千葉支部 福住昭六



所在地 千葉  
当地に実際ありまして、年間通じ沢山のお客さんが訪れます。

県木更津市富士見2-9-30、木更津駅北口下車（海岸側）1.5km、都市化の中央に大きな森が見える、ここが浄土真宗本願寺派寺院古寺護念山證誠寺である。

寺は珍しくここだけに有し何処にもありません。誕生したのは江戸時代初期十七世紀頃と言われております。

私も驚いているのは、この寺の面積です。町の中央に膨大な森を有する事、この森を見た人は狸が集まる場所が整っている、現在も繁みの深い森の一面であり、話が想像できると思っています。

今年の三月の事、寺講堂に於いて法要講座があり、出席してみました。

住職の講話によると、いつの時代かははっきりとしませんが、ある月の明るい夜に何故か表が騒がしいので雨戸の節穴から覗き見。おどろいたことに

百匹余りの狸が広い庭に集まり、ススキ・カエデの葉っぱを持ち騒いでいた。

住職は夢ではないかと思いつながら床に就く、今見た光景を思い出して素晴らしさが心に残りなかなか寝付かれず夜明けを迎えた。

次の夜には昨晚と違い狸の数が増えている。この夜は昨晚と変わって狸が踊り出した。やはり住職が節穴から覗いて見ていたが、歌を交え證誠院のベンベコベンおいらの友達ボンポコボンと、大きな腹を打ち鳴らし草笛吹いて踊っているではないか。

和尚も余りの面白さに吊り込まれ、仲間に入り三晩続けて踊りに明けた。

次の晩待ちに待った住職の元には狸軍団が現れず、不審に思った住職が外を見回ると、驚いた事に素晴らしい狸の親分（ボス）が、余りにもお腹に力を加えたので皮が破れて死んでいた。

この姿を見た和尚が哀れに思い厚く葬った。

その墓地が現在立派な狸塚になっている。

これが童話で知られる狸囃子證誠寺の由来である。



狸塚

# 特集 「高森中学校校歌」のこと

酒井 弘司

わたしが、市田中学校の生徒として学んだのは、昭和二十六年四月から二十九年三月。

当時のことは、記憶がさだかでないなりつつあるが、編集部から依頼された「校歌」誕生について、いくつかのことを書いてみたい。

昭和二十二年に学校教育法が施行。六・三制が実施され、わたしたち小原ヶ丘に新設された市田中学校で三年間学んだ。まだ校歌はなかった。校長先生は、中島正信先生。

三年生になった春頃、朝会で今度新しく校歌をつくることになった。市田



中学校にふさわしい文化と気品のある校歌に、ぜひしたい。作詞は窪

田空穂先生、作曲は山田耕作先生にお願いしている。」と話されたことが、仄かな記憶のなかにある。

その年の十月頃であつたらうか。わたしたち文芸部の顧問の滝本慈真先生が、窪田空穂作詞の校歌が書かれた紙面を、部室として使っていた教室に持って来られ、部員の意見を聞いてくださる機会があつた。

一 山うるはしく 水清き

南信濃の わが郷土

美稲<sup>うまさほね</sup>みのる 地は広く

ちち牛あそぶ 野は深し

小原ヶ丘を 占めて立つ

我らが市田中学校

二 水ゆたかなる 天龍は

止まぬ姿を 見よといふ

青空高き 連峰は

動がぬさまを 見よといふ

郷土の声を 胸に聞く

我らが市田中学校

三 いざ進みゆく 次の代を

共に担はん 学友よ

郷土のほこり 身にしめて

誠実をもちて 顕はさん

小原ヶ丘に 誉あれ

我らが市田中学校

歌詞は、旧仮名で書かれていたが、現在は表記が新仮名に変わった。

何回か、歌詞を読み直し、「一」の箇所

美稲みのる 地は広く

ちち牛あそぶ 野は深し

のフレーズ。この二行に、わたしは違和感のあることを先生に伝えた。

それは、水田や畑の広がる土地を「地は広く」といつているのであるが、伊那の谷は天竜川の河岸段丘によって出現したところ。それゆえに「伊那は七谷」とも呼ばれ、峡谷。けっして「地は広く」ないのではと思えた。

そうはいつでも歌詞は、次の行で

「野は深し」と、韻を踏んでいる。

やむをえないことかと思つたが、こだわりがあつた。

もう一つの疑義は「ちち牛あそぶ」の表記。昭和二十年代後半の市田村の産業構造では、乳牛を飼っている農家は、四百〇五百軒。たしかに乳牛の飼育は盛んであつたが、この歌詞のような状態は、半永久的に続くものなのか。そうでなかったら、校歌は、違和感を持ちながら存続する。そのことが、即座に脳裏にひらめいた。現在、市田地区での乳牛の飼育農家は三軒という。

もっとも、窪田空穂さんは、著名な歌人で東京在住。当時、76歳であつた。

生まれは、長野県松本市。その近辺は、肥沃な安曇野である。

校歌作詞にあたつては、現地調査はなかった。市田村について、口頭での説明や村勢を示す写真・資料から、推しはかつ

ての作詞ということであつたから、止むをえないところもあつたに違いない。

以上の二つの疑義について、滝本先生に進言したが、そのあと歌詞が、微調整されるということにはなかつた。昭和二十九年三月に制定された。

その後、昭和三十二年に、市田村と山吹村が合併、高森町になり、また、昭和三十八年五月には、高森南中学校と北中学校が統合され「高森中学校」となった。この市田中学校校歌は、その後も継承されている。

統合時に変更されたのは「一」「二」「三」共に、「我らが市田中学校」が、「我らが高森中学校」と変えられたことである。



2013年11月18日 昭和記念公園  
(当時の同級生後列左から2人目が酒井弘司氏)

## 高森俳壇

酒井弘司・選

吉川 照峰

白雪に朱の実散らす小鳥哉  
暑き夜網戸の外は鉦叩き  
鉄線に道行く人は足を止め  
嵐去り庭一面に枯松葉

島岡 麦穂

待ちに待つ鶯鳴くも春はまだ  
札幌の春は一気と孫の便  
水緩むカエルの卵ゆらゆらと  
誇らしく桜草咲く庭の隅  
春風や祭囃子の音を運び

光澤 武

鶯はいつもの場所で春を告げ  
豪雪で軒並み子屋根がつぶされた  
トンネルを越えて来て甲斐の残り雪  
野を焼くや棚田の郷の通り雨

田中 くに子

木村 勇  
びかぴかの一年生を見守り隊  
水ゆるみ採れたあさりに身がいっぱい  
奥多摩の桜の下にまだ雪が  
五月晴れ南アルプスの雪眺め  
りんご畑摘花の合間にわらび採り

林 璋

凍ゆるむ畦に滑りし靴の跡  
草餅が先ず売り切れて物産展  
立春の櫓を漕ぐ舟のうねりかな

芭蕉忌や木地師の里の櫓くづ  
小雀の落されたのか落ちたのか  
恋の字の点は涙か薄暑光

羽生 義雄

天守閣桜格子に相模灘  
校庭の桜彼方に仙丈岳  
恋仲か桜見ボーズ撮ってやる  
古城にて春の伊那谷リニアかな

小宮 昭美

風薫る自然摘果や柿の花  
矢車草カメラ向けられ右左  
桑のびて蚕糸の頃が蘇る

松下 善一

五月晴れ風に添われて散歩する  
散る桜和服のあなたの裾に舞う  
静けさや梅一輪の教室となり  
電車降り深呼吸する春の宵  
永き日の庭に野鳥は集いおり

寺澤 草然

白木蓮桜と競う父母の里  
つばめ来る三陸の海いま静か

## 【講評】

吉川さん「白雪に」の句。白雪と朱  
の実のコントラストが、よく出た一句。

島岡さん「札幌の」の句。「春は一気」  
の措辞に、実感がありますね。

光澤さん「豪雪で」の句。「つぶされ  
た」の口語発想が爽やか。

田中さん「野を焼くや」の句。「や」  
の大きな切字が、よく生きています。  
木村さん「びかぴかの」の句。「見守

り隊」は、おじいちゃん達でし  
ょうか。明るい一句。

林 璋さん「恋の字の」の句。「薄暑  
光」の季語が置かれて、一句、情感  
のある句になりました。

羽生さん「校庭の」の句。この校庭  
は、旧、市田小学校でしょうか。遠  
近のある一句です。

小宮さん「矢車草」の句。「カメラ向  
けられ右左」と、優しい眼差しが窺  
われます。

松下さん「五月晴れ」の句。「風に添  
われて」の措辞で、この句、生きま  
した。

寺澤さん「つばめ来る」の句。東日  
本大震災が忍ばれます。鎮魂の一句。

\*

投句者10名の方の作品を拝読して  
いて、お名前も熟知している方のも  
のが、多くあり、なつかしく思いま  
した。

俳句は、世界でもっとも短い（最  
短定型詩型）です。とつきやすい  
のですが、また、ながく持続してつ  
くることが要求される詩型でもあり  
ます。

数年前、正岡子規国際俳句大賞を  
受賞したアメリカの詩人、ゲイリー・  
スナイダーさんの話を聞いて、外国  
人は俳句をどのように見ているのか、  
知るよすがになりました。

それは、「世界のどこにおいても、  
俳句はみずみずしくて斬新、実験的

で、若さと遊び心にあふれ、かつ慎み  
深く、詩的な語りをやってみたい学生  
や初心者にも親しみやすいもの」と、  
いうものでした。

どうぞ、一日いちにちの思いを、ぜ  
ひ一句になさってみてください。

信 濃

酒井 弘司

黒姫山どすんと立てり一茶の地  
千曲川ぐいと南へ麦の秋

どくだみの花のあわあわ馬籠宿  
ふるさとの土踏んでゆく梅雨入かな  
不動滝ごうごうと気を散らしおり



# 会員動向

## 新入会員紹介

平成二十六年九月現在

氏名／出身地／住所

○東京第二支部

富田 信／下市田1区

東京都八王子市

○神奈川支部

森田 順次／山吹龍口

神奈川県川崎市

○千葉支部

平沢 きみ／山吹

千葉県柏市

## 入会お誘い

### キャンペーン実施中

高森会は今、会員の高齢化と減員で運営に黄信号が見え始めています。

ふるさと南信州高森町出身の新しい若い仲間をお誘いして、更に魅力ある高森会づくりを進めましょう。



お待ちしております

## ゴルフ同郷会

を立ち上げました。

楽しいゴルフで絆を上げませんか。詳細は、窓口の龍口昭人幹事長へ。

☎ 042-9998-2667

## ゴルフ好き集まれ！



第1回3.27 若洲ゴルフリンクスにて

## お知らせ掲示板

●第二十八回定期総会・懇親会

日時 平成二十七年五月三十日(土)

場所 台東区民会館九階大ホール

みんなで誘い合って参加して

ふるさとの絆を上げましょう！

●ふるさと農作業支援活動

秋期 十月下旬～十一月上旬

春期 平成二十七年

四月下旬～五月上旬

宿泊「森の家」交流センター

詳細は、担当の龍口昭人氏へ

☎ 042-9998-2667

## 会員交流会

日時 平成二十六年十月

内容 「東京再発見」はとバスツアー

詳細は、同封の案内状をご覧ください。

※恒例の「ふるさと訪問旅行」は、今回休止となります。

## 表紙の写真説明

平成二十五年春に完成した高森町立高森中学校です。木のぬくもりとゆとりある空間づくり、最新の環境・省エネに配慮された柿色の校舎は、又一つふるさとの自慢です。因みに総工費三十二億円。是非とも帰郷の折にはお立ち寄りを。

「あの頃にこの学舎あれば吾優等生」

(卒業生)

(写真は町役場経営企画室より拝借)

## 裏表紙の説明

今回は東京第一支部の小景を掲載しました。東京スカイツリーで活気づく浅草を通り、臨海エリアへ流れる隅田川の橋にスポットをあててみました。荒川の分岐から始まる隅田川には二十六の橋が架かっています。近年、橋ブームで観光船や屋形船で大賑わいです。そして最河口に二十七番目の大橋を建造中です。

(隅田川風景は

東京都橋の資料館より借用)

## 編集後記

「TOKYO」のコールで日本中が歓喜で沸いた。二〇二〇年の五輪・パラリンピックの東京開催が決まった瞬間である。◆「五輪開催は国を変えるエンジンである」正に前回の東京五輪は、敗戦後の日本を復興させ、世界の経済大国へ押し上げる起爆剤となった。

◆しかし、成熟した日本は、バブルの崩壊、金融危機、東日本大震災等を被り、活力を失い、先の見えない低迷状態が続いてきた。◆二〇二〇年の東京開催は、今の日本が未来に向けて大きく生まれ変わる絶好のチャンスである。

◆世界では今、「観光は最先端産業」と言われている。富士山・富岡製糸場の世界遺産登録は、もの作り産業中心の日本が観光立国として世界に飛躍できる相乗効果も期待できる。みんなで「おもてなし」の準備をしよう。◆高森会員には五輪とリニアの夢がある。

(編集委員長 岩崎邦彦)

## 会報編集委員

編集委員長 岩崎 邦彦 (東京第二)

副編集委員長 龍口 和也 (埼玉)

編集委員 岩崎 悟 (千葉)

編集委員 松下 善一 (東京第二)

編集委員 宮内 みはる (埼玉)

# 東京第一支部小景

## 隅田川に架かる橋はいくつ？



### ■永代橋

永代橋は、放物線状の大規模ソリッドリブアーチを中心とする荘重な造形により、近代的橋梁美を実現している。また本橋は、建設当時、吊橋の分野であった支間100mを初めて越えた橋梁であり、大規模構造物建設の技術的達成度を示す事例として重要である。

（184m 1926年建造）



東京五輪に向けて  
最河口に新橋建造中



### ■清洲橋

清洲橋は、内務省復興局技術陣が探究した力学的合理性に基づく近代的橋梁美を実現している。また、材料・構造形式及び工法に当局の最先端技術を駆使しており、昭和初期を代表する吊橋として重要である。

（186m 1928年創架）



### ■勝鬨橋

勝鬨橋は、海運と陸運の共栄を意図して建造した特殊な構造形式で、国内唯一のシカゴ型双葉跳開橋として貴重である。また、国内最大規模の可動支間を有する技術的完成度の高い構造物であり、近代可動橋の一つの技術的到達点を示している。

（246m 1940年創架）

隅田川は東京都北区で荒川から分岐し、東京湾に注ぐ全長23.5kmの一級河川。有名な夏の隅田川花火大会や、屋形船による川下り、水辺を巡る散策、近年人気の河川テラスなど魅力が一杯。

隅田川に架かる橋は現在26橋。清洲橋・永代橋・勝鬨橋は国の重要文化財。